

令和4年10月6日

令和4年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原情報ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原情報ビジネス専門学校 学校関係者評価委員会は、令和3年度自己に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

令和4年10月6日

2. 学校関係者評価委員

廣田 利久 氏 (エクセルコンピュータサービス株式会社)

渡邊 元気 氏 (本校卒業生 イマジニア株式会社)

舘 麻里愛 氏 (本校卒業生 花王株式会社)

(事務局)

五十嵐 孝浩 (大原情報ビジネス専門学校 副校長)

高橋 知孝 (大原情報ビジネス専門学校 部長)

平井 良明 (大原情報ビジネス専門学校 課長)

大塚 聖明 (大原情報ビジネス専門学校 課長)

令和4年10月6日

【達成度の評価】0%（取り組めていない）～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

令和3年度		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・目的・育人人材像	1	理念・目的・育人人材像	70～80%	<p>当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。</p> <p>また、大原学園の建学の精神を「感奮興起」と定め、この意味するところの「感動は感謝を育み、奮闘は成功の一步となる。興味は才能を開花させ、起動で人は自立する。」が具体的な教育理念となっている。教員に対しては「一人ひとりに光を」を教育指針に掲げ、学生一人ひとりの目標と個性を活かした将来を描けるよう指導にあたっている。</p> <p>この教育理念を実現するために、主に高校卒業生を入学対象としている専門課程と、大学生・社会人を入学対象とした社会人講座を二本柱にししながら、資格取得教育を中心に実務に対応できる人材の育成を行っている。</p> <p>これらの教育理念・目的・育人人材像は、書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。その教育理念・目的の下で、教職員が質の高い教育を実践し、目指す人材を育成している。</p> <p>また、理念や目的、また育成する人材像は入学案内パンフレット、大原学園ホームページを通じて公表している。</p>	・適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針		<p>学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて部課長会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。</p> <p>教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。</p>	・適正に運営されている。
		3	事業計画		<p>学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。</p> <p>教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。</p>	・適正に運営されている。
		4	運営組織	90%	<p>理事会・評議員会で決議された内容は、事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。</p>	・適正に運営されている。
		5	人事・給与制度	80%	<p>要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心にして適切に運用されている。</p>	・適正に運営されている。
		6	意思決定システム	90%	<p>理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。</p>	・適正に運営されている。
		7	情報システム	70%	<p>学校運営における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。</p> <p>役目を終えたシステムなどが残されており、また、業務に応じ、その都度開発されてきた各種システムが存在しているため、これらの整理統合に取り組んでいる。</p>	・適正に運営されている。
		8	目標の設定		<p>毎年、教育課程を編成するに当たり、教育課程編成委員会（学園本部校）の提言を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。</p> <p>また、各学科の教育目標、育人人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。</p>	・適正に運営されている。
3	教育活動	9	教育方法・評価等	70～80%	<p>教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。</p> <p>定期的な見直しに当たっては、関連企業、卒業生、近隣住民等と協力した検討会を実施している。</p> <p>また、学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善をおこなっている。</p>	・画面を通してコミュニケーションをとる機会が増加している。オンラインでコミュニケーションを取れるようになる教育もあると尚よい。
		10	成績評価・単位認定等	70%	<p>成績評価は客観的な方法で常に明確に行っている。</p> <p>毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。また卒業研究については、研究内容設定から成果評価まで企業に協力いただき、現在のビジネス現場に応じた実践的内容で実施することができている。</p>	・適正に運営されている。
		11	資格・免許の取得の指導体制	80～90%	<p>資格取得の体制については一定の水準は維持できている。</p> <p>保護者への教育方針の理解を高めること、また、実務家教員の動員を進めることで、より教育の質向上を図る。</p>	・適正に運営されている。
		12	教員・教員組織	60～80%	<p>常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。一部、不十分な点を残すが今後の課題としたい。</p>	・適正に運営されている。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

令和3年度		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
4	学修成果	13	就職率	80%	就職希望学生への就職指導においては、教員及び就職部スタッフが個別面談を進め、学生個人の適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。学生本人の希望する就職が概ね達成できている。また、それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。	・オンラインでの説明会、選考が主流になっているため、画面を通してコミュニケーションを取れるような指導が必要。 ・エントリーシートの選考を、動画提出の選考に変える企業も出ている。表情や感情表現が重要視されるようになってきている。 ・自己主張が弱い学生が増えているように感じる。就労意欲をしっかりと伝えてほしい。 ・業界に対する魅力を理解できていない学生が多いように思える。入学時よりその業界の魅力を理解できるようなカリキュラムを検討しても良いのでは。
		14	資格・免許の取得率	80%	教育課程を編成する中で、学生が就職を志望する業界、業種で役立つ資格取得を目指している。一部高度な国家試験等を除き、大半の学生が合格出来るよう教材作成、カリキュラムや指導方法の研究も行っている。	・適正に運営されている。
		15	卒業生の社会的評価	70%	企業担当者からの情報に基づき、学生指導に役立てている。課題発見能力、課題解決力が不足している点を複数の企業担当者から指摘頂いているため、今後の教育課程編成における課題として取り組んでいく。	・適正に運営されている。
5	学生支援	16	就職等進路	80%	就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。就職内定獲得に必要な指導内容は1年間、2年間カリキュラムの一環として組み込まれ、早期の内定獲得を実現している。一部卒業後も国家試験合格を目指して学習する学生もいるが、社会人講座との教育連携した進路指導が出来ている。	・適正に運営されている。
		17	中途退学への対応	80%	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取り組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取り組みが必要である。ご家庭との連携も欠かせない。	・企業でもコミュニケーションをとる機会を積極的に設けている。 ・コロナ禍でイベントやクラブ活動に制限がかかってしまった事で、コミュニケーションをとる機会が減少している。 ・学校でも、クラスや学園をまたいだコミュニケーションがとれる機会を積極的に作ってはどうか。 ・コロナ禍でイベントの実施が出来ない場合は、オンラインでの交流会などを企画しても良いのではないかと。
		18	学生相談	80%	学生相談については、学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	・悩んでいる学生の話を聞いてあげる事が重要。これまで通り、学生一人ひとりに親身になり話しを聞いてあげて欲しい。
		19	学生生活	70～80%	より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	・適正に運営されている。
		20	保護者との連携	70%	保護者への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書の発送前に、保護者への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者に来校していただき、面談も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しく、また、理解を得られない保護者も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	・適正に運営されている。
		21	卒業生・社会人	60～70%	卒業生への支援体制としては、担当教員を窓口に関わり合いに応じて対応している。担当教員と上司や他の教員、関係部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。また、大学卒業生や社会人などのニーズにこたえる制度の開発をさらに進めていく。	・適正に運営されている。
6	教育環境	22	施設・設備等	80%	施設・設備に関しては、ほぼ十分な対応ができていると思われる。今後もこの体制を崩さないように教職員の意識を高めながら維持していきたい。	・適正に運営されている。
		23	学外実習、インターンシップ等		実習等や研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。	・適正に運営されている。
		24	防災・安全管理	70%	保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的および人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。	・適正に運営されている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

令和3年度		中項目		自己評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集活動	80%	将来を意識した学生および保護者等に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起ささないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。	・適正に運営されている。
		26	入学選考	70～80%	学生一人一人に対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っており、この体制を維持していく。	・適正に運営されている。
		27	学納金		教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	・適正に運営されている。
8	財務	28	財務基盤		学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては好調であり、財務基盤は安定している。具体的には、キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。	・適正に運営されている。
		29	予算・収支計画		当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	・適正に運営されている。
		30	監査		学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	・適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	70%	学園全体の財務情報は、大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	・適正に運営されている。
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	90%	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	・適正に運営されている。
		33	個人情報保護	80%	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	・適正に運営されている。
		34	学校評価		自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、大原学園ホームページ、外部者による学校関係者評価の実施を検討していく。	・適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	70%	学校の概要や教育内容は大原学園ホームページに掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	・適正に運営されている。
10	社会貢献・地域貢献	36	社会貢献・地域貢献	70～80%	附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたのもも提供したいと考えている。	・地域に根差した学校運営という視点は非常に良い。コロナ禍で出来る事は限られるが、積極的に地域との交流を行ってほしい。
		37	ボランティア活動	50%	ボランティア活動は学生の希望者のみ学校所在地自治体や病院等のボランティアに参加している。また、教職員が地元商店会の清掃ボランティアに参加している。	・コロナ禍でボランティア自体が少ない状況だが、機会があれば積極的に参加をしてもらいたい。また、ボランティアへの参加が難しい状況であっても、地域や環境問題について話し合いの機会を設けるなど工夫して頂き、主体性、社会性、創造性の高い学生を輩出してほしい

大原情報ビジネス専門学校での令和3年度における自己評価・自己点検は概ね良好な結果となっているが、適正な評価と言えるであろう。就職を最終目標にせず、社会で即戦力となる知識技能や社会性を養う事を目標に教職員全員が一丸となって教育活動に取り組んでいる姿が伺える。その成果として、多くの卒業生が実社会で活躍している事は、社会的貢献の意味で非常に大きな役割を果たしている。現在の教育内容にも学生の社会性向上に向けた教育が多く含まれているが、課題発見能力や課題解決能力の向上のために、教育プログラムを適宜改定する事が重要と思われる。重点課題の改善に向けた取組みの中で、更に反映させてほしい。今後も、学校関係者一同、客観的な視点から様々な提言を投げかける事により、大原情報ビジネス専門学校が社会の信頼を益々得られるようにサポートしていきたいと思う。